



# The Baseball Hall of Fame and Museum

## 公益財団法人 野球殿堂博物館

### 2019年 野球殿堂入り通知式

館長 廣瀬 信一

1月15日(火)、野球殿堂博物館を臨時休館として、午後2時より当館の殿堂ホールにおいて、2019年「野球殿堂入り」通知式をマスコミと維持会員の皆様をお招きして行いました。

競技者表彰・プレーヤー表彰では、中日一筋に22年、中心選手として活躍した立浪 和義さんが選出されました。エキスパート表彰では、98年に横浜(現 DeNA) 監督に就任し、38年ぶりのリーグ優勝と日本一に導いた権藤 博さんが選出されました。

特別表彰からは、プロ・アマの関係改善、交流促進に尽力された第5代日本高等学校野球連盟会長の脇村 春夫さんが選出されました。

斉藤 惇理事長から本年度野球殿堂入りの発表、挨拶に続き、競技者表彰委員会代表幹事の永瀬 郷太郎さん、特別表彰委員会議長の池田 哲雄さんより選考過程について各々報告がありました。

続いて、殿堂入り通知書の授与、顕彰者の挨拶が行われ、まず立浪さんが、「決して大きい体ではなかったが、逆に目標とされるように全力で頑張ってきた」、「たくさんの素晴らしい指導者に恵まれたおかげ」と感謝の言葉を述べられました。権藤さんは「歴代のメンバーを見ると、凄いところに入った。一世一代の晴れ姿と思っています」と顔をほころばせて話されました。

特別表彰で選出された脇村さんは、「自分が殿堂入りとはありえないことで、全く夢にも思わなかった。光栄の至り。感謝しています。」と87歳とは思えぬ大きな声で喜びを語りました。

ゲストスピーチでは、PL学園出身で初の殿堂入りとなった立浪さんの恩師で、元監督の中村 順司さんが、「本来ならばこの席は中日時代の故・星野監督が一番相応しい」と前置きしながら「桑田、清原らプロ入りした選手の背中を見て育ち、高いレベルを目指していた」と高校時代の思い出を感慨深げに話されました。

権藤さんには、中日でエースナンバーの「20番」を背負った先輩の杉下 茂さんから、「権藤君は当時の監督の命令で、なりふり構わずに投げた。「背番号20と言えば中日の看板投手」、としたのは私ではなく権藤君だ。毎日のように投げて肩を痛めたが、指導者になって、1年でも投手の寿命を長くしようと分業制を確立した」と後輩を称えられました。

脇村さんには、高野連会長時代に事務局長として支え、現在同連盟の理事を務めている田名部 和裕さんから、脇村さんの球歴と数々の功績を丁寧に詳しく披露していただきました。

最後に記念撮影を行い、お祝いムードの中通知式が終了しました。



後列左より 中村 順司氏、杉下 茂氏、田名部 和裕氏  
前列左より 立浪 和義氏、権藤 博氏、斉藤 惇理事長、脇村 春夫氏

**懇親会** 野球殿堂入りをされた皆様、斉藤理事長をはじめ関係者の方々にご出席をいただき、通知式後の懇親会を東京ドームホテルで行いました。

当日が87歳の誕生日である脇村さんに、バースデーケーキをプレゼントしました。脇村さんがローソクの火を元氣よく吹き消された後、全員でケーキを食べるなど、和気藹々親睦を深めることができました。

## 競技者表彰委員会

第59回競技者表彰委員会は、プレーヤー表彰で歴代最多の487二塁打を記録した立浪 和義氏、エキスパート表彰で中日入団2年連続最多勝に輝き、監督として横浜を日本一に導いた権藤 博氏の2人を平成最後の野球殿堂入りに選出した。

プレーヤー表彰は現役を引退して5年を経過し、かつ引退から21年未満の有資格者の中から幹事会が選んだ18人の候補者を対象に、15年以上の野球報道経験を持つ381人の委員のうち372人から最大7人連記の投票があった。

無効票1票で、有効投票数は史上最多の371を数えた。投票数が増えたのは日本ハムが札幌に移転して15年が経過し、北海道スポーツ記者倶楽部に所属する委員が新たに加わったのが大きな要因となっている。

投票総数は1937。委員1人平均5.2人の投票となり、前回の5.1人を0.1人上回った。



立浪 和義氏

立浪氏は有効投票数の75%にあたる当選必要数279票を8票上回る77.4%の287票を獲得した。候補1年目の2015年から117、171、217、242と着実に投票数を伸ばしてきて候補5年目での当選。PL学園出身者としては初めての殿堂入りとなった。

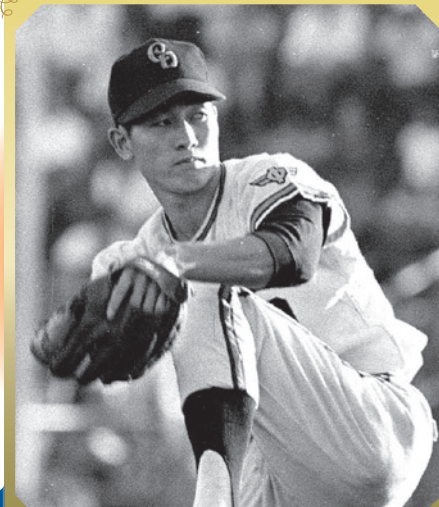
同氏は1987年にPL学園の主将として甲子園春夏連覇を達成し、ドラフト1位で中日に入団。1988年にはセ・リーグ3人目となる高卒新人の開幕戦出場を果たし、新人王に輝いた。22年間で歴代8位となる通算2480安打を積み重ねた。

次点は得票率60.6%の225票を集めた高津 臣吾氏。50.7%の188票を獲得した川相 昌弘氏が続いた。1年目の候補者では宮本 慎也氏が41.2%の153票、アレック

ス・ラミレス氏が40.4%の150票を獲得した。

エキスパート表彰は幹事会が選んだ15人の候補者を対象に、すでに殿堂入りしている方と競技者表彰委員会幹事、30年以上の野球報道経験を持つ計140人のうち134人から最大5人連記の投票があった。

プレーヤー表彰と同じく無効票が1票あり、有効投票数は133。こちらも史上最多で、投票総数は553。1人平均4.2人連記の投票で前回4.1人を0.1人上回った。



権藤 博氏

権藤氏は76.7%にあたる102票を獲得し、当選必要数の100を2票上回って殿堂入りした。

同氏は競技者表彰がプレーヤー表彰とエキスパート表彰の2部門になる前年の2007年に220票を獲得したが、有効投票数305の72.1%に止まり、当選必要数に9票及ばなかった。

2008年からエキスパート表彰の対象に回り、中日のコーチに就任して候補から外れた2012年を除く11回目の候補での当選となった。

中日入団1年目の1961年に35勝、2年目の1962年に30勝を挙げながら「権藤、権藤、雨、権藤」と言われたフル回転で右肩を壊し、通算82勝に終わった。酷使で短命に終わった苦い経験から指導者になってからは投手分業制を推進。投手コーチとして中日、近鉄をリーグ優勝、監督として横浜を日本一に導いた。

次点は得票率64.7%にあたる86票を獲得した田淵幸一氏。63.2%の84票を集めたランディ・バース氏が続いた。

これで競技者表彰での殿堂入りは97となった。新年号で初となる次回、3人当選すれば大台に到達する。

(競技者表彰委員会代表幹事 永瀬 郷太郎)

## 特別表彰委員会

第58回特別表彰委員会は、今年1月9日午後2時から、東京都文京区の東京ドームホテルで開かれた。

昨年野球殿堂入りした故・瀧 正男氏（中京大監督）を除き、今年は新たに候補者3名を加えた計10名の候補者の中から、同委員会の投票で選出されたのは、かつて夏の甲子園大会を制した高校球児・脇村 春夫氏だった。

脇村氏は選考委員14名中、殿堂入りに必要な75%を超える13票を獲得。晴れて殿堂入りの栄誉を獲得した。



脇村 春夫氏

脇村氏は1932年1月15日生まれ。49年8月、第31回全国高等学校野球選手権大会に、湘南高校2年生の時に三塁手として出場。初出場初優勝の快挙を達成した。1学年後輩には、後に慶大からプロ野球の高橋ユニオンズに籍を置く佐々木 信也氏がいた。

東大法学部進学後の51年春のリーグ戦で三塁手として、デビュー。54年には主将を務めた。東京六大学通算82試合に出場、268打数48安打、打率.179、0本塁打、10打点の成績を残す。

社会人野球の東洋紡富田（四日市市）に入社。55年8月の第26回都市対抗野球大会では、三塁手として準々決勝進出に貢献した。56年には東洋紡岩国に移籍。社会人では3年間プレーした後、ユニフォームを脱いでいる。

現役引退後は社業に専念し、同社の専務取締役の重責を担う。

同社を退任した後は、新興産業（現東洋紡STC）に迎えられ、95年には取締役社長に就任。98年同社取締役社長を退任する。

野球からは45年のブランクを経て、2002年に第5代日本高等学校野球連盟会長に就任する。

会長の椅子に就くと、最初に問題提起したのは、「プロ野球のOBが母校へ行っても後輩たちに指導できないのは、どうしてなのか」だった。

当時プロ野球のコミッショナーを務めていた川島 廣守氏と、話し合いを重ねた。

03年にはプロ野球選手会と協力して、シンポジウム「夢の向こうに」を開催。プロ野球選手が初めて高校球児を技術指導する歴史的な快挙を達成した。プロ・アマの閉ざされていた歴史の扉を開いたのだ。04年にはプロと「新人選手選択に関する覚書」に調印。抜け穴を防ぐために従来の「退部届」を「プロ志望届」に改めている。ドラフト会議での新人獲得の際にアマチュアとプロとの間に、軋轢が生じないように配慮を施した功績は計り知れない。雪解けは進み、プロ出身者の母校での練習を解禁。今日のプロ出身者のアマ野球指導を可能にした「アマチュア資格」へと繋がった。

「プロもアマも一緒に楽しくやるのが、本来の姿。認められたのは感慨深い」

高野連会長在籍中には「毎週水曜日に還暦野球で、一塁コーチを務める。サインは出さないけどね」と悪戯っぽい笑顔を浮かべていた。

会長退任後も、春夏の甲子園大会を連日観戦。試合後には両チームの監督に労いの言葉を掛けることを日課としていた。試合中にはバルコニー席で、早春の肌寒い中、または猛暑の中、スコアブックを付ける姿が見られた。夏の甲子園を制した元球児は、いつまでも野球を愛する野球少年だったのだ。

2019年1月15日。平成最後の野球殿堂入り通知式が行われた、この日は奇しくも脇村氏の87歳の誕生日だった。

今上天皇の美智子皇后陛下とは、いとこの関係にあたる。

「皇后さまが、私の殿堂入りをご存じかどうか分かりませんが、新聞でお読みにになりますかねえ」と、野球少年のように清々しい笑顔を浮かべる姿が印象的だった。

（特別表彰委員会議長 池田 哲雄）

（3氏の写真はベースボール・マガジン社提供）

## 殿堂入りの人々を語る(62)

### 仙さんとの思い出

星野仙一記念館 館長 延原 敏朗



星野 仙一氏

一周忌が過ぎたというのに、私の心はまだ整理がついておりません。毎日のように記念館のビデオ室から、彼の生前の声が聞こえるからだと思います。たった一日の出会いから、三十余年にわたるお付き合いが出来るなんて思ってもみませんでした。最初は友達付き合いであり、家族付き合いに変わり、そして兄弟付き合いになるなんて、夢の様に思えてなりません。

1997年1月31日の早朝、電話が鳴り、妻より「星野さんから電話よ」と言われて電話口に出たところ、「今、扶沙子が死んだ。わたしには女兄弟しかいないので、すぐ来てくれ」と言われました。私は驚き、取るものもとりあえず新幹線に飛び乗りました。車中で彼の電話の言葉を思い出し、「ああ、仙さんは僕のことを兄弟のように思い、頼ってくれたのか」と胸が熱くなりました。以来、星野家の皆様に「岡山のおじさん」と呼ばれ親しくさせていただき、感謝の気持ちでいっぱいです。

彼は現役引退後、野球解説者、3球団にわたり監督を務める等多忙な中でも社会貢献に力を注ぎました。そのひとつは社会福祉法人「旭川荘」に三十年間に渡り慰問を続けたことです。訪問時には、子どもたちの前でこの一年の思い出を話し、また監督の立場としては、その采配について熱く語っていました。そして一人一人にお土産を渡して「頑張ろうな、元気でな、また来るよ」とにこやかに声を掛けていました。さらに、車椅子で出来る野球「ティーボール」を普及させ、現在では年に一度「星野仙一杯争奪西日本肢体不自由児ティーボール交歓大会」が開催されるまでになりました。

彼が皆に愛されていたのは、どんな困難な約束でも必ず守る。そして批判を受けても一切反論せず、友人や同僚の悪口などは、決して口にしなかったからではないでしょうか。監督時代は闘将と呼ばれ怖がられていましたが、本当の姿は選手、コーチ、スタッフをととても大事にする男でした。2015年には、私をはじめ記念館のスタッフや友人をハワイに招待してくれ、一緒にゴルフやバーベキューを楽しんだことは、忘れられない大切な思い出となりました。

2016年7月10日、彼はすい臓がんと診断されました。その病名は、家族や関係者以外には伝えず、私にも絶対には言うな、と口止めをしたと聞いています。

2017年1月に念願だった野球殿堂入りを果たしました。7月、ナゴヤドームでの殿堂入りの表彰式の際、「おい、とっちゃん、最後のツーショットの写真を撮ろう」「わたしはまだ死なないよ、仙さん」「いいから、いいから」と言いながら2人で写真に納まりました。あれはお別れが近いことを私へ伝えようとしたシグナルだったのではないかと、なぜあの時気付いてあげられなかったのかと未だに後悔しております。

その年の年末に予定されていた殿堂入り祝賀パーティーで、お世話になった方々を招待することを一つの目標として、彼は懸命に病魔と闘っていたのだと思います。その祝賀パーティーでは、彼は体調が悪い中でも気丈に振る舞い、招待客の皆様「ありがとな、ありがとな」と言って握手をして回っていました。今思えば、あれは皆様にお別れの挨拶をしていたのでしょうか。

亡くなる10日前、記念館の行く末を心配した彼の代わりにお嬢様から電話を頂きました。「来年にはいい知らせをするから、安心するように仙さんに言っておいて」と返したのが最後のやり取りとなってしまいました。

2018年1月4日午前5時25分に星野 仙一氏は亡くなりました。お嬢様から「パパが亡くなったよ」との知らせを受けた私は、衝撃のあまり言葉を失いました。その後彼女が何を言っていたのか全く耳に入って来ず、ただ号泣するばかりでした。後日行われた葬儀の席で「長年、兄貴の様に慕ってくれありがとな、いずれそちらへ行くから一緒にゴルフをしような」と心の中でお礼を言い、今生のお別れをしました。

あれから一年が経つというのに、彼がこの世に居ないことが、どうしても信じられません。いつの日か「おい、とっちゃん、来たぞ」とあのニヒルな笑顔で記念館のドアを開けて入ってくるような気がしてなりません。

もの  
 知ってほしいこんな資料 (90)

 大淀ボーイズ・島野 <sup>あゆり</sup> 愛友利投手の着用ユニホーム、帽子、使用グラブ

2018年8月に開催された、第12回全日本中学野球選手権大会ジャイアンツカップでは、初出場の大淀ボーイズ（大阪）が優勝に輝きました。そこで女子エースとしてチームの優勝に貢献したのが、島野 愛友利投手です。

島野投手は、小学2年生の時から野球を始め、最速123kmの速球と、緩急をつけた投球で、大淀ボーイズのエースとして成長しました。

島野投手は、江戸川中央リトルシニア（東京）との2回戦に先発。打たせて取る投球で7回2失点に抑え、5-2で勝利すると、弘前聖愛リトルシニア（青森）との準決勝でも先発し、7回3失点に抑え、6-3で勝利。2試合を完投し、チームを決勝へと導きました。東練馬リトルシニア（東京）との決勝では、2-0とリードの場面で最終回の7回に登板。見事0点に抑え、胴上げ投手となり、チームの初出場初優勝に貢献しました。

12回目を迎えたジャイアンツカップの歴史の中で、島野投手は、「初の女性投手」であり、「初の女性選手の決勝戦進出及び優勝」という快挙を達成しました。

島野投手は、4月から女子野球部の強豪・神戸弘陵高（兵庫）に進学予定で、今後の活躍が期待されます。

島野投手の着用ユニホーム、帽子、使用グラブは、2018年12月15日（土）～2019年3月3日（日）に開催の企画展「野球報道写真展2018」で、島野投手の写真とともに公開しています。企画展終了後は、ジャイアンツカップのコーナーで展示予定です。ぜひご覧ください。



学芸員 井上 裕太



## こんにちは図書室です



## 『話の扉 東北の野球』

当館で所蔵している野球の本には、地域の野球の歴史やチーム、有名選手を紹介するような資料もあります。その中で、今回は『話の扉 東北の野球』（半澤 正二郎 著 1949年5月30日 東北教育図書 発行 219p タテ18cm ヨコ12.5cm）をご紹介します。



序文は、東北の野球に縁の深いタイガースの若林 忠志氏の他、東北野球連盟会長と高等学校体育連盟の方が執筆しています。若林氏の序文を見ると、若林氏が主宰する雑誌「ボールフレンド」に外国を含めた野球界の出来事を、面白く書いている半澤 正二郎氏が、青少年に野球を正しく伝えるために執筆。戦争で野球が中断され、歴史や伝統を知るのが困難な今の野球界で、青少年のためになる本だと薦めています。

目次を見ても、「東北野球創世記」「全国中等学校大会と東北勢」「東北6県野球飛びある記」「東北野球連盟所在地」など東北の野球に関することとともに、「野球のはじめ」「若林の投球」「野球技術はのびる」など、いろいろなジャンルの野球の話が1冊にまとまっているのが分かります。例えば、明治29（1886）年に一高が横浜外国人を破った後、7月4日に第4回戦が行われると聞き、二高の応援団が大挙して上京し、一高を応援した話があれば、昭和9（1934）年にベーブ・ルースが来日した際、著者は仙台で行われた日米野球でルースと会うことができ、話もし、2本のホームランも見た話などさまざまです。

東北の野球の歴史、出来事、試合、チームや大会の歴史などを知ることができる面白い本だと思います。

司書 小川 晶子

## 野球殿堂博物館 トピックス (2018年11月～2019年1月)

### 11/28 NPB スピードアップ賞表彰式開催

館内野球殿堂ホールにて、NPBのコミッショナー表彰である「ローソチケット スピードアップ賞」表彰式が開催されました。受賞者の多和田 真三郎投手(埼玉西武)、京田 陽太選手(中日)、藤岡 裕大選手(千葉ロッテ)が登壇し、表彰を受けました。(横浜DeNA・三上 朋也投手はご欠席)また、チーム表彰として、読売ジャイアンツ、オリックス・バファローズが表彰されました。



表彰式3選手

また、京田選手が当日開催中の企画展「第3回 野球で自由研究！コンテスト」作品展を見学し、特に大賞作品「盗塁の極意」(宮地 瑛大さん作品)に非常に感心されていました。

### 1/11 プロ野球新人選手・審判員115名来館！

「2019年 NPB新人選手研修会」に先立ち、新人選手と審判員計115名が来館しました。選手たちは、学芸員の案内でそれぞれの球団ゆかりの資料やプロ野球の歴史に関する展示、野球殿堂ホールなどを、40分ほどかけて見学しました。なお、この見学会は午前中を臨時に休館し開催しました。

見学中の選手たち



### 12/9 公式記録員が教える「NPB式スコアの付け方」教室



「NPB式スコアの付け方」教室の様子

館内のイベントホールにて、NPBの山川 誠二記録課長を講師にお迎えし、「NPB式スコアの付け方」教室を開催しました。NPB式スコアの特徴などを説明の後、記録法について、試合映像を見ながら解説していただきました。今回のイベントは、30名の予定で参加者を募集しましたが、大変好評だったため、急きょ2回に分け、60名の方にご参加いただきました。参加された方からは、「楽しく学習できた」、「また参加したい」といった感想が聞かれました。

## 「第3回 野球で自由研究！コンテスト」のご報告

野球殿堂博物館は昨年に続き小学生を対象に「第3回 野球で自由研究！コンテスト」を開催しました。作品応募期間は8月1日から10月7日まで、昨年とほぼ同数の92人から応募がありました。

審査は11月1日に、山中 正竹氏(2016年野球殿堂入り、全日本野球協会 会長、法政大学 元教授)、ジョイス・津野田 幸子氏(1977年野球殿堂入り 西村 幸生氏 長女、ハワイ大学 コミュニティ・カレッジズ 元総長)、田原 淳子氏(国士舘大学 体育学部 こどもスポーツ教育学科 教授)、廣瀬 信一館長の4名の審査員で行われました。

厳正な審査の結果、最優秀賞には東京都6年・宮地 瑛大さんの「盗塁の極意」が選ばれました。宮地さんの作品は、プロ野球選手の盗塁を細かく観察し、学んだことを取り入れながらも、自分に合った盗塁の方法を考え、まとめ上げられた作品でした。

優秀賞には東京都3年・伊藤 祥大さん、東京都3年・奥田 涼大さん、東京都5年・庄子 大皓さん、アイデア賞には千葉県3年・吉田 夏海さん、審査員特別賞には東京都3年・合田 稀音さん、東京都3年・島原 悠颯さんが選ばれました。

選ばれた7名の作品は、11月24日から12月9日の期間、「第3回 野球で自由研究！コンテスト作品展」として、その他の一次選考通過作品とともに展示しました。11月25日には表彰式を行い、審査員による講評の後、それぞれに賞状が贈られました。また、副賞として最優秀賞の宮地さんには、侍ジャパンの稲葉 篤紀監督のサインボールが、その他の6名にはサイン色紙が贈られました。

表彰式のあとの懇親会では、受賞者とそのご家族、審査員のみなさんなどが出席し、ご家族同士、また審査員と歓談されたりと、和やかな会になりました。

このコンテストは当館のミッションである“次世代を担う子どもたちへ、野球の魅力や楽しさを伝え、「ひろげる」ため”の中心的活動であると捉え、今後も続けていきます。



「第3回 野球で自由研究！コンテスト」の最優秀賞・優秀賞に輝いた作品はこちらのアドレスからご覧ください。  
[http://www.baseball-museum.or.jp/jiyu-kenkyu/contest/award\\_2018.html#](http://www.baseball-museum.or.jp/jiyu-kenkyu/contest/award_2018.html#)

## 企画展「野球報道写真展 2018」好評開催中！

本展は当博物館と東京写真記者協会の共催で、今回で4回目を迎えました。2018年12月15日の会期初日には、北海道日本ハムの清宮 幸太郎選手にご来館いただき、ご自身のプロ初本塁打の写真パネルにサインを入れていただきました。



←岩瀬氏

清宮選手



根尾選手



吉田投手

また、19年1月11日の「NPB新人選手研修会」に先立ち見学に来館した、中日の根尾 昂選手、北海道日本ハムの吉田 輝星投手にも、昨夏の第100回全国高校野球選手権大会の写真パネルにサインをいただきました。さらに同研修会での講演後の岩瀬 仁紀氏(元中日)にもご来館いただき、昨年ご寄贈いただいた通算1000試合登板のユニホーム等の寄贈礼状を廣瀬館長よりお渡しし、記録達成時の写真パネルにサインと座右の銘「継続は力なり」を書き入れていただきました。

本展は3月3日までの開催となります。恒例の「ベストショットオブザイヤー」を決めるファン投票も実施中です。ぜひご来館ください。

## 博物館からのお知らせ

### ▶退職

2013年1月から嘱託として勤務しておりました学芸員の新美和子が、12月31日付で退職いたしました。

### ▶販売

●平成30年野球殿堂入り記念  
「松井 秀喜氏 レプリカレリーフ」販売中！

販売価格：150,000円(税込)  
平成30年野球殿堂入りされました松井 秀喜氏が授与されたレリーフを、20/47に縮小し、完全再現しました。

#### 〈付属品〉

- ・証明書(ご注文者様のお名前入り)
- ・松井秀喜氏直筆サイン入り写真(レリーフのモチーフとなったもの)

※シリアルナンバー入り(レリーフ背面、ケース前面、証明書)

受付方法については、当館ホームページまたは当館に直接お問い合わせください。

野球殿堂博物館  
03-3811-3600(担当:業務管理部 山口・矢野・小林)



●編集後記 今年の野球殿堂入りの方々をご紹介するため、発行が少し遅くなりました。これから、夏に行われる表彰式にむけて準備が始まります。1年が始まったと感じます。

### ▶野球守2019黒発売！

販売価格：800円(税込)  
以前よりご好評いただいております野球守(黒)が再登場いたしました。現在、「白」「黒」の2色を販売しております！

「野球守」は……

「ケガをしないよう」、「野球が上手になるよう」、「野球の試合に勝てるよう」等、みなさまの野球を応援するお守りで、袋の中にはグローブの革で作られたお守りが入っています。

※昨年の野球守は、当館返納箱までお持ちください。



博物館のご案内	場所	東京ドーム21ゲート右
	開館時間	3月1日～9月30日 AM10時～PM6時 10月1日～2月末日 AM10時～PM5時 (入館は閉館の30分前まで)
	入館料	大人 600円(500円) } ( )は 高・大学生 400円 } 20名以上の団体 小・中学生 200円(150円) 65歳以上 400円
	休館日	月曜日 (祝日、東京ドームでの野球開催日、春・夏休み中は開館) 年末年始(12月29日～1月1日)

### 《2月・3月・4月の休館日》

2月 4日・18日・25日  
3月 4日・11日・25日 4月 8日・15日  
※なお、図書室は2月1日～28日まで閉室します。

野球殿堂博物館 Newsletter 第28巻 第4号  
2019年2月5日発行(年4回発行)  
編集・発行 公益財団法人 野球殿堂博物館  
(旧・財団法人 野球体育博物館)  
〒112-0004 東京都文京区後楽1-3-61  
Tel 03(3811)3600 Fax 03(3811)5369  
http://www.baseball-museum.or.jp/



# The Baseball Hall of Fame and Museum

## 公益財団法人 野球殿堂博物館

### リレー随筆 (73)

時代の流れには逆らえないが…

競技者表彰委員会幹事 尾谷 和也 (報知新聞社)

元日の朝。お雑煮を食べながら、年賀状に目を通す。年始めの恒例といっているのだが、その年賀状を受け取る枚数が年々、減ってきている。ピークだったころの3分の1ほどになったのだろうか。日本郵便などのデータによると、年賀状発行のピークは2003年の約44億枚。昨年の2018年は約24億枚というから、わずか15年で半分近く減少したことになる。

原因は様々、考えられる。まず個人情報何やらで、送り先の住所が分からない。今では考えられないが、ひと昔前のプロ野球選手名鑑には、選手の住所が記載されていた。駆け出しの記者だったころは、その名鑑とにらめっこしながら年賀状を書きまくったものだ。ついでに言えば、弊社が発行していた手帳には、選手の自宅電話番号まで載っていた。当時、選手自宅にいたずら電話や無言電話があったのも、それが理由のひとつだったかもしれない。

もうひとつの原因は、やはり SNS の発達だ。我が家にいる娘2人も、年賀状はわずか1枚しか書かない。妻方の祖父へ宛てるものだが、それにしたって親からうるさく言われ、渋々とペンをとっている。仕事仲間や友人に書かないのは「だって住所を知らないもん」。さらに「新年の挨拶は、フェイスブックや LINE で、日付が替わった直後に送れるし。その方が気持ちも伝わる」という。といっても、その中身といったら「あけおめ」「ことよろ」のたぐい。時代は変わった、と思うしかない。

さらに言うと、彼女たちは父親が新聞社に勤務しているのに、新聞も読まない。ニュースはすべてスマホの中にある。新聞は読まなくてもテレビ欄くらいは見そうなのだが、それもテレビのリモコンをワンタッチすれば、地上波も BS も CS もすべての番組表が一覧できてしまう。スポーツ新聞業界においても、2000年初めのころと現在では、発行部数が半減しているというデータもある。日本郵便よりも、自分のことを心配した方がいい、という話ではあるけれど。

とまあ、我が家のことはどうでもいいのだが、今年はプロ野球の元監督や元球団代表、元スカウト、さらには野球選手本を出版したときにお世話になった元出版社の人から、長年やり取りのあった年賀状が来なくなった。昨年の年賀状ですでに「終活に入りますので、来年からは新年の挨拶を控えさせていただきます」という旨の通知があった。来ないことは分かっていたので驚きはなかったが、風の便りによれば、元監督は老人施設に入居したという。そして今年もまた「来年からは遠慮させていただく…」という便りが数通あった。

かなり古い話にはなってしまうが、こちらが送っていないにも関わらず、パ・リーグの若き主砲から元旦早々に年賀状が届いたことがある。驚いたのは、宛名の表面も、新年挨拶の裏面も、すべてが手書きだったことだ。球団関係者に聞くと、約1000枚、すべてを丁寧に自筆で書き上げたのだという。1枚書くのにな数分かるとして、丸々2日間は年賀状と格闘していた計算になる。そんな律儀すぎる男が、どこで道を踏み外してしまったのか、今は球界と身を置く立場にいる。今年の彼は、どんな年賀状を送ったのだろうか。

年に一度のたった1枚のハガキのやり取り。若い世代の間では、年賀状不要論も叫ばれ、発行枚数はこれからも右肩下がりがだろう。年末の忙しいなか、年賀状を準備するのは確かに煩わしい。それでも、これまで来ていたものが来なくなると「あの人は今元気なのか」という思いも強く募る。新年の決意とともに、一抹の寂しさも感じてしまう元日の朝になってしまった。